

J1リーグ公式戦・ベガルタ仙台 - ジュビロ磐田戦・ボランティア活動報告

グランディ・21 ボランティアセンター
村松 淳司

平成 15 年 4 月 29 日、J1リーグ公式戦・ベガルタ仙台 - ジュビロ磐田戦において、グランディ・21 内、宮城スタジアム場外においてボランティア活動を行いましたので、報告致します。

別紙のような計画にて、活動を行いました。当日は、朝7時半に主なボランティアリーダーがグランディ・21 ボランティアセンターに集合し、準備作業を行い、9時半には全ボランティアが集合し、10時前から場外でのボランティア活動を行いました。

ボランティアの総数は55名。それらをブース毎(誘導ボランティアも含む)割り振り、観客の誘導、情報提供等を行いました。

なお、活動に際しては宮城スタジアム場内のベガルタボランティアと活動内容を完全に分けるため、グランディ・21 ボランティアは専ら、場外の観客誘導、情報提供に徹しました。

同じ活動を5月24日のベガルタ仙台 - 鹿島アントラーズ戦でも行う予定で準備を進めています。

宮スタ利用促進側面から支援 県民ボランティア始動



会場を訪れた観客に、入場ゲートの場所を説明するグランディ21・ボランティア委員会のメンバー(右側)＝29日午前11時ごろ、宮城県利府町の宮城スタジアム

宮城県利府町の宮城スタジアムの利活用促進を住民サイドから支援する「グランディ21・ボランティア委員会」が29日、サッカー・Jリーグ1部(J1)のベガルタ仙台—ジュビロ磐田戦で活動を開始した。

ボランティア委員会は、宮城スタジアムを運営する県総合運動公園が呼び掛けて3月に発足し、会員は約190人。この日は55人が参加し、スタジアム周辺に3カ所設けたブースで、観客の会場案内に当た

った。

平均年齢は約50歳。2001年のみやぎ国体や02年のサッカー・ワールドカップ(W杯)のボランティアを経験した人も多く、入場ゲートや最寄りのトイレ、ごみ捨て場の場所などを慣れた様子で教えていた。

国体ボランティアの経験がある会員の公務員西堀洋子さん(53)＝瀬峰町＝は「宮城スタジアムは栗原の方からは来やすい場所。国体のときのような多くの人との出会いも楽しみで参加しました」と笑顔を絶やさず対応していた。

ボランティアは観客に好評で、「宮城スタジアムはゲートが分かりづらいので助かります」と仙台市青葉区の会社員中野修さん(36)。足の弱い父親をスタンドまで車いすで案内してもらった青葉区のパート鈴木鏡子さん(41)は「お年寄りも安心して来られますね」と感謝していた。

委員会の「キャプテン」は、かつて「W杯後は宮城スタジアムを壊せ」発言で問題提起した東北大教授の村松淳司さん(44)。「自分の言葉に責任を持つつもりで、まずは全力でスタジアムの利活用促進に努力する。これからもさまざまな大会を支援したい」と話していた。

活動の様子は平成15年4月30日付、河北新報朝刊・宮城県版に掲載された他、左記のように、河北新報ホームページに掲載されている。

平成 15 年 4 月 16 日

4 / 29 ベガルタ仙台 - ジュビロ磐田戦
イベント運営補助ボランティア活動計画書

グランディ・21 ボランティアセンター
村松淳司

< 1 > 目的

宮城スタジアムで開催される J1 公式ゲームにおいては、従来交通アクセス、運営体制などの批判が出て、必ずしも満足して帰られる方が多くはなかった。

本ボランティア活動では、ベガルタ仙台とジュビロ磐田のサッカー試合を観戦される方に、的確な情報を提供し、かつ誘導を行うことで、不満を和らげ、一人でも多くの方に満足感を持っていただくこと、また、一人でも多くの方がリピーターとなって、再び宮城スタジアムに足を運んでいただくこと、を目的とする。

< 2 > 概要

- 1) 下記のように、場外インフォメーションセンターを設置し、訪れる観客の誘導、情報提供等にあたる。
- 2) 場外インフォメーションセンターとは別に、遊軍として、観客が迷いそうなポイントに立って、迷っている人、ハンディキャップのある方の補助等にあたる。

< 3 > 実施要綱

1. 組織 (伝達系統)

責任者: グランディ・21 ボランティアセンター ボランティア委員会キャプテン 村松淳司[1]

| 村松の所在: 場外インフォメーションブース

| 東北ハンドレッドとの連絡担当、全体の総括

各場外インフォメーションブース責任者等

- ・菅野利視[2] (イベント運営補助グループ・ボランティアリーダー) 場外インフォメーションブース
ポイントに立つ遊軍ボランティア(シャトルバス発着場、Nゲートなど)
- ・森信之[3] (ボランティア委員会副委員長) 場外インフォメーションブース
ポイントに立つ遊軍ボランティア(Eゲート、プール前など)
- ・高木智恵子[4] (イベント運営補助グループ・ボランティアリーダー) 場外インフォメーションブース
ポイントに立つ遊軍ボランティア(Wゲート、円形広場入口など)
- ・星和行[5] (環境美化ボラ委員) スタジアム6F監視担当
- ・石井信行[6] (イベント運営補助グループ・ボランティアリーダー) ボランティアセンター
- ・飯島喜一郎[7] (見学班長) スタジアム事務室

2. 場外インフォメーションブース設置場所:

3箇所 1ブース 10~15名(内、7~10名は遊軍ボランティア) 合計 30~45名

別紙地図参照

3. ボランティア活動時間帯: 10:00~19:00 (予定、状況により長引く可能性もあります)

ボランティア集合時刻: 9:30 集合場所: グランディ・21 ボランティアセンター

4. 各連絡方法

1) スタジアム内外の情報伝達 / 無線連絡

星[5] 村松[1] or 森[3] 菅野[2]、高木[4]

2) スタジアム内外の情報伝達 / 内線電話 & 無線

星[5] 石井[6] 村松[1] or 森[3] 菅野[2]、高木[4]

3) 東北ハンドレッドとの連絡

村松[1] 東北ハンドレッド・貝田 (PHS、携帯電話)

貝田 村松[1] 星[5]、森[3] 菅野[2]、高木[4]

4) 交通情報などの情報提供 (テレビ、ラジオ等からの情報)

石井[6] 村松[1] or 森[3] 菅野[2]、高木[4]、星[5]

5) スタジアム事務室からの情報伝達 (テレビモニターからの情報)

飯島[7] (内線) 石井[6] 村松[1] or 森[3] 菅野[2]、高木[4]、星[5]

5. 誘導・案内内容

- 1) チケットを拝見して、ゲートに案内する
- 2) 車椅子の貸し出し(必ずサポーターとしてボランティアがつく) 貸し出し要領は別紙
- 3) グランディ・21内の案内
- 4) 帰りの経路の案内
- 5) その他

6. 場外インフォメーションブース内備品

- ・ブース近く(入口)に大きな場内案内図
- ・場内案内図・駐車場案内図のチラシ
- ・グランディ・21情報誌
- ・筆記用具、テープ・ヒモなど
- ・救急箱
- ・情報掲示板(ホワイトボード等)メモを貼る
- ・緊急連絡網(携帯、PHSなどの電話番号明記)
- ・無線(本部との連絡:各ブース1台程度) 5台
- ・ハンドマイク (遊軍ボランティア装備品)
- ・車椅子
- ・暖房、雨しのぎなど

7. ボランティアセンター備品

- ・チラシ、情報誌の在庫
- ・グランディ・21案内パンフ
- ・テレビ、ラジオ
- ・その他、事務用品

8. 遊軍ボランティア携行品

- ・各種チラシ
- ・ハンドマイク
- ・その他必要なもの

9. その他

- 1) ベガルタボランティアのコートあるいはウィンドブレーカーを着用すること
- 2) 弁当は東北ハンドレッドが手配し配布する
- 3) 休憩場所はボランティアセンター(総合プール内)に設置
- 4) テントはボランティアで組み立てる

< 4 > 研修

第1回研修会

対象: 全ボランティア
日時: 4月27日 13:00~15:00に変更
場所: ボランティアセンター隣の会議室
内容: 本活動計画の説明、分担、活動日に必要な物品の整理と制作
実施訓練: 実際に無線等を使った訓練

第2回研修会

対象: ボランティアリーダーなど
日時: 4月28日 19:00~20:00に変更
場所: スタジアム内
内容: 警備側との分担確認など

平成 15 年 4 月 22 日

4 / 29 ベガルタ仙台 - ジュビロ磐田戦
車椅子貸し出しサービス

グランディ・21 ボランティアセンター
村松淳司

1. 車椅子貸し出しサービス担当者 (場外インフォメーションブース2が担当)
責任者: 場外インフォメーションブース責任者 = 森信之 (副委員長)
担当者: 鈴木寿彦 (イベント運営サブリーダー) 他
2. 車椅子集積所
場外インフォメーションブース2に、全部の車椅子10台を集積する。
3. 車椅子識別
車椅子は01 ~ 10に番号を振る。
4. 貸し出し方法
 - A. 借りたい人がブースに来た場合
 - (1) 空いている車椅子の貸し出しサービス簿に、住所、氏名、電話番号、年齢などを記載してもらう。
貸し出しサービス簿は識別番号毎に用意される。
 - (2) 担当者はサービス簿に、担当ボランティア名を記入する。
 - (3) 記載後、ボランティア一人が車椅子を押して、当該チケットの席まで案内する。このとき貸し出しサービス簿を携えることが望ましい。
 - (4) 席まで案内した後、空の車椅子とともに場外インフォメーションブースまで帰還する。
 - (5) 貸し出しサービス簿に、サービス終了のサインをする。
 - (6) 担当者確認後、サイン。
 - B. 歩行困難な方を遊軍ボランティアが見つけた場合
 - (1) 遊軍ボランティア (ボラ1) はその人を現場に居て貰って、近くの場外インフォメーションブースに行く。
 - (2) 当該場外インフォメーションブースから、場外インフォメーションブース2に無線連絡する。
 - (3) 場外インフォメーションブース2は担当者に連絡、担当者は担当ボランティア (ボラ2) を決め、当該貸し出しサービス簿に担当ボランティア名を記入する。
 - (4) ボラ2は、車椅子、当該貸し出しサービス簿とともに連絡をした場外インフォメーションブースまで行く。
 - (5) ボラ1とボラ2は一緒に、依頼者の元に行く。
 - (6) 到着したら、ボラ1の役目は終わり。以下、ボラ2。
 - (7) 依頼者の元では、貸し出しサービス簿に住所、氏名、電話番号、年齢などを記載してもらう。
 - (8) 記載後、ボランティア一人が車椅子を押して、当該チケットの席まで案内する。
 - (9) 席まで案内した後、空の車椅子とともに場外インフォメーションブースまで帰還する。
 - (10) 貸し出しサービス簿に、サービス終了のサインをする。
 - (11) 担当者確認後、サイン。
5. 注意事項
 - (1) 車椅子を押すときには、段差、他の人などに十分注意すること
車椅子に乗っている方の命を握っていると考えよ。慎重の上にも慎重に行動すること。
 - (2) 席まで到達したら直ちに帰還すること
 - (3) 帰りの車椅子予約を申し込まれた場合は、下記のように対処すること
車椅子貸し出しサービス簿に他の予約がない場合は、予約欄に、住所、氏名等必要事項を記入して貰って、予約する。
他の予約が入っている場合は、一度場外インフォメーションブース2に帰り、空いている車椅子のサービス簿に予約を入れて、再び観客席に行くこと

以上

平成 15 年 4 月 22 日

4 / 29 ベガルタ仙台 - ジュビロ磐田戦
活動内容別詳細

グランディ・21 ボランティアセンター
村松淳司

1. 全体責任者：村松
 - (1) 東北ハンドレッドとの連絡、依頼等
 - (2) ブース責任者等への連絡、指示等
2. ブース責任者：菅野、森、高木
 - (1) ブース運営、活動実施の責任
 - (2) 受付ボラ、遊軍ボラへの指示
 - (3) 全体責任者との連絡、依頼等
 - (4) ブース間の連絡、情報交換等
 - (5) その他、ブース内で解決できるもの。それ以外の場合は全体責任者に連絡し、指示を受ける。
3. 司令室責任者：星
 - (1) 会場外の状況の把握
 - (2) シャトルバス運行状況、駐車場の状況等の把握
 - (3) 人の流れの把握
 - (4) その他、情報収集
 - (5) 状況をできるだけ詳細に全体責任者あるいはブース2責任者に連絡
 - (6) 無線伝達失敗時にはボランティアセンターに有線で連絡
4. 事務室責任者：飯島
 - (1) 会場外の状況の把握
 - (2) グランディ・21 職員との情報交換、連絡、依頼等
 - (3) その他の状況把握、情報収集
 - (4) 状況をできるだけ詳細にボランティアセンター、司令室責任者に有線で連絡
5. ボラセン責任者：石井
 - (1) 情報伝達：司令室・事務室との情報交換、依頼等
 - (2) 全体責任者あるいはブース2責任者への情報伝達
 - (3) ボラセンの運営、管理
 - (4) その他、ボラセンに関わること
6. ブース受付(に該当)
 - (1) 情報案内
 - ・チラシの配布 (東北ハンドレッド作成資料あり)
 - ・場内の案内 (受付用資料による)
 - ・帰りの交通案内 (輸送・警備計画 = 受付用)
 - ・その他の質問に答える

わからないことはブース責任者へ(ブース責任者でも不明な場合は全体責任者へ)
 - (2) 車椅子貸し出し 車椅子担当者へ連絡
 - (3) 落とし物、迷子
 - (4) その他
7. 遊軍ボランティア
 - (1) 積極的に声をかけよう！ 「こんにちは。ベガルタ戦によろこそ！」
 - (2) 困っている人には「どうしました？」と積極的に！
 - (3) チケットを見て適切な誘導 (そのためにはゲート位置を予め把握しておくこと)
 - (4) チラシの配布 (東北ハンドレッド用意 = ブースにある)
 - (5) 車椅子を使ったらいい方へ声をかけ、別紙「車椅子貸し出しサービス」参照
 - (6) とにかく、声をかけよう！ 自分で判断がつかない場合はブースにお連れすること！
 - (7) 明るく！ 笑顔で！
 - (8) 帰りには、的確なシャトルバス乗車、自家用車乗車の誘導が必要。そのために、試合中はシャトルバス位置、自家用車駐車場を自分の目で把握しておくこと。



注意点:

1. 指定席は、W ゲートが中心。E ゲートにも S 指定バックスタンドがあるので注意。
2. 上記のチケット種別によるゲート規制は、恐らく 13:00(詳細は試合当日周知徹底する)に解除され、S ゲート(ビジター自由席 = 鹿島アントラーズサポーター)以外は、どこからも入れるようになるので、ブース責任者の指示に注意すること。
3. 場内は S ゲートのビジター自由席は隔離されるので、W - N - E の3ゲート間は自由に行き来できるが、S ゲート付近には入れない。つまり、1周できない。
4. トイレの位置に習熟すること。必ず聞かれる。体育館、プール等屋内のトイレは使用できない。また、自販機も使用できない。
5. 場外販売店は5 / 8現在未定。飲み物の買う場所をたずねられたら、利府駅シャトル発着所側のデイリーヤマザキの場所を教えること。
6. 自分で判断できないこと、曖昧なことがあったら、必ず、ブース責任者に尋ねること！ 特に誤った情報を絶対に伝えてはならない！

ボランティアで車利用の方はボランティア用駐車許可証を必ずフロントに出しておくこと

Jリーグ共通禁止事項（観戦マナー）

【ランクA（消防法・刑法・条例等で定められた禁止事項及びJリーグでの重点禁止事項）】

- 危険物の持ち込み及び使用
- フィールドへの物品の投げ込み
- フィールドへの飛び降り
- 暴力行為
- 威嚇行為
- 危険行為

【ランクB（Jリーグでの統一禁止事項）】

- ビン・缶の持ち込み
- 手荷物検査の拒否
- 危険物の一時預かり拒否
- 試合進行妨害（レーザーポインター・笛・ホイッスルの使用）
- ガスホーンの使用
- 立入禁止区域への不正侵入
- ペットを連れての観戦（盲導犬・聴導犬は除く）
- 近隣住民に迷惑のかかる行為

【ランクC（ベガルタ仙台における禁止事項）】

- 運営妨害
- キャップのついたペットボトルの持ち込み
- SS席・S席での鳴り物による応援
- SS席・S席・A席でのビッグフラッグによる応援
- 集団での抗議活動、バス・乗用車止め等
- 通路に立ち止まっただけの観戦・応援
- 通路に物を置いての観戦・応援
- ボイ捨て禁止
- チアホーンの使用
- SS席での横断幕の掲出
- 観戦・競技運営に支障をきたす場所への横断幕の掲出
- 誹謗中傷目的の横断幕・バナー・旗の掲出
- 拡声器の使用（ピッチに向けて審判員・選手・チームスタッフへの誹謗中傷目的の使用）
- 紙ふぶきの使用
- その他、クラブが認められない行為と判断した場合

Jリーグ統一禁止事項における持ち込み禁止危険物の例

【危険物】

- 爆竹、花火、発煙筒、ビン、缶、銃刀類、火器、毒劇物等

【危険物とみなされるもの】

- エアガン、バネ式鉄砲、ボウガン、スタンガン、モデルガン、警棒、木刀、竹刀、ヌンチャク、バット、パチンコ、弓（和・洋）、ブーメラン、レーザーポインター、石、大物工具（ドライバー、かなづち、のこぎり等）、くぎ、フォーク・ナイフ等、はさみ・カッター等、クラッカー、注射器、長尺物（ゴルフクラブ、ゲートボールのスティック、釣り竿、ビリヤードのキュー等）

等

【投げ入れが想定されるもの】

- フリスビー、手裏剣、ゴルフボール、野球ボール、ゲートボール、パチンコ球、スーパーボール、フランクフルトの串、トイレトペーパー、風船、コイン、三脚、ヨーヨー等



一般車駐車に関するメモ:

1. 指定駐車場以外は原則的には駐車できない。
2. 駐車券のない車が入ってきた場合は警備員が対処。排除はしない。
3. 帰り: 出場には最大1時間半がかかる。駐車場の構造上、短縮不可能。
4. 帰り: 仙台への最も早いルートは、しらかし台 IC 経由である。

